

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319
http://www.nu-dobokukai.com



佐伯謹吾 会長

会長挨拶

「日大土木会の皆様へ」

佐伯 謹吾

会員の皆様には、日大土木会の各種事業に對しまして、ご支援・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

例年ですと、本会報には新会長が紹介され、ご挨拶が掲載されることとありますが、今般のコロナ禍の影響で諸々の予定が変更される中、本会の総会も開催が困難になり、私を含め現在の役員がもう一年延長して任に当たらせていただくことになりました。

引き続きよろしくお願ひいたします。

ご承知の通り、今年の日大土木が日本大学高等工学校として、大正九年（一九二〇年）に創設されて以来一〇〇周年を迎えました。

これまで、多くの先輩方をはじめ現役で活躍中の方々のご尽力と御活躍のお陰で、日大土木は我が国の土木界においてゆるぎない地位を築いており、この歴史と伝統を継承することが、我々に課せられた使命と考えております。

近年、地球温暖化も影響していると思われる災害が、各地で発生しています。自然災害から国土を守り、良質な生活空間の構築や社会的・経済的基盤の整備を目的とする土木技術に対する期待は高まっ



神保廣光 副会長

講演会報告

「学生向け講演会を
開催して」

副会長・事業部会長
神保 廣光

令和二年六月十日、理工学部土木工学科の3、4年生を対象に災害対策の実際や災害発生メカニズムを学ぶ「災害管理」の講義で実務的な立場でUR東日本都市再生本部の田村実樹氏（平成十年理工・土木卒）に「URの震災復興支援の取組みについて」講演（リモート講演）頂いた。

URの復興支年の取組みの講演は今年で七年目になります。平成二十六年（二十八年度）は、宮城県東松島市の現地（東矢本駅北地区及び野蒜北部丘陵地区）での震災直後から約5年間の短期間での事業完了に尽力された東松島事務所清水所長に依頼し、平成二十九（三十一年度）は、URの支社（復興支援局）や本社に在籍での復興支援の立場から、UR全体の震災復興支援の取組みをUR本社の加藤部長に紹介頂きました。

今年度は加藤部長の推薦で、入社二十二年目の学生諸君の年齢に近い田村氏に依頼しました。田村氏はニュータウ

事業に約十年間、UR復興支援では最盛期（UR支援者ピーク四四六名（H二八年四月）の平成

二十八（三十年）まで岩手震災復興支援本部山田復興支援事務所山田町の復興支援の現地整備（大沢地区、山田地区）を担当されました。

例年、理工学部の一号館で学生と対面の講演でしたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、授業同様リモート講演（ZOOM・九十分）となりました。講演に先立ち鎌尾先生のリードでリハサル（田村氏、神保）を行いました。受講生の質疑等のか不安感もありましたが、田村氏が学生への配布資料を解り易く作成頂き、約百三十名との多人数から感想文を提出頂き、UR組織やURの復興支援について具体的にUR勤務の日大土木の先輩から聴いたことに多くの感謝のことば等を頂いたことをご報告させていただきます。

講演の構成は昨年の加藤氏の講演と同様、以下の4点に大別して講演頂きました。

- I. UR都市機構について
- II. 東日本大震災の復興支援
- III. 被災地危険度判定
- IV. 災害に強いまちづくり

講演内容は加藤氏から講演

頂いた内容報告（日大土木会会報・第二十三号、第二十六号）も併せてご覧頂ければと思いますが、今回は田村氏が実務で体験された内容で、受講生の注目度が高い内容について報告させて頂きます。

- I. URは監督官庁の国交省の指導により、民間事業者や地方公共団体と協力してURにできることとして4つのフィールドを掲げている
- ①都市再生
- ②住環境
- ③災害復興
- ④郊外環境

UR職員約三千二百名の内約4割が土木職であり、各部門で活躍している。田村氏が現在所属している都市再生本部では①都市再生の事例として御茶ノ水に近い大手町地区（17・4ha）では土地区画整理事業と市街地再開発事業手法により、「連鎖型都市再生事業」は建物を連鎖的に建替えることで、事業活動を中断することなく再生している。④郊外環境の事例として、田村氏が担当した東葉高速線の船橋日大前駅に隣接する坪井地区（船橋美し学園芽吹きの杜・65・4ha）の土地区画整理事業では、ビオトープのある近隣公園を中心とした「水の拠点、保存緑地を

日本大学理工学部土木工学科 2020年に創設100周年！



出典：復興局「帝都復興記念帖」1930年

聖橋：1923年関東大震災の復興事業として1927年7月に竣工 構造形式：鉄筋コンクリートアーチ 鋼板桁 橋長：79.3m
日本大学工学部（日本大学理工学部の前身）土木工学科 教授 成瀬勝武氏（当時復興局橋梁課長）が構造設計を担当
（写真奥の建物はニコライ堂）

日本大学理工学部土木工学科は、私学の土木工学科で初めて2020年に創設100周年を迎えます。
(1920年6月1日 高等工学校土木科として認可) この間、3万6千人を超える卒業生を輩出し、関東大震災の復興をはじめ国内外の様々な国土・都市基盤の整備に貢献してきました。
これからの100年も豊かな社会の実現に向け取り組んでまいります。

【記念式典・祝賀会】
日程：令和3年1月24日（日）に延期の上開催
場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋1-1-1）
○記念式典：白樺鶴亀の間（3F）11:00～
○祝賀会：ダイヤモンドルーム（2F）12:00～
※お問合せ：土木工学科創設100周年記念事業実行委員会事務局
日本大学理工学部土木工学科（担当教員：重村）
E-mail: shigemura.satoshi@nihon-u.ac.jp
FAX: 03-3293-3319

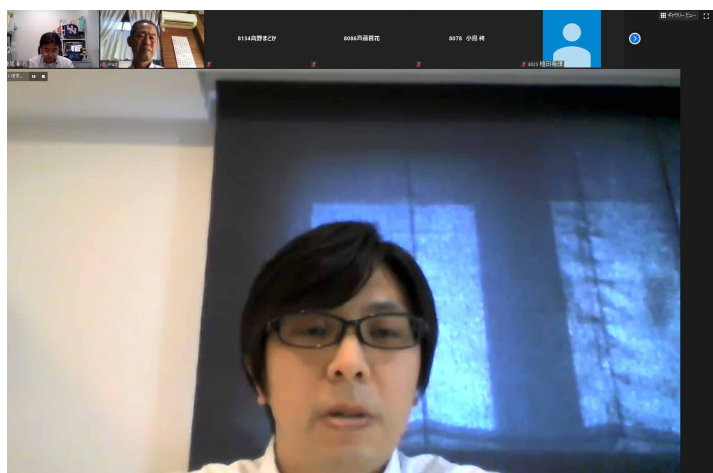


日本大学理工学部土木工学科創設100周年記念事業実行委員会

理工学部土木工学科創設100周年のポスター

中心とした「緑の拠点」それら2つをせせりぎ歩道で結んだ「環境軸」の整備を写真等で説明されましたが、坪井地区周辺の居住者や一年生時に通学の船橋校舎に隣接している地区で、綺麗に整備されている街との印象を持っている学生が多かった。ただUR整備の認識者は殆どいないようだが、震災復興支援講演に先立つ話題としては馴染みのある地区での体験事例は土木職が幅広く活躍できると捉えたようである。

II. 東日本震災支援 URは被災二十五自治体とで、復興まちづくり協力して推進するための覚書・協定を締結した。津波被災地における復興市街地整備は大規模地区中心に二地区で事業受託し、被災地の土地地区画整理事業の約6割を支援。又災害公営住宅整備では岩手・宮城の市町村整備分の約4割を支援している。



オンラインでの講演の様子 (講師: 田村実樹氏・UR)

津波被災地の復興市街地整備は、一部地区(陸前高田地区)を残して、ハード整備は概ね完了しており、福島の子力災害被災地域でのまちづくり(大熊町、双葉町、浪江町)に注力している。

●津波被災地の具体の支援として田村氏が山田復興支援事務所(平成二十八(三十)担当された山田地区について報告された。 ①東日本大震災の被災状況 山田湾津波到達約三十分後 山田湾津波高さ約四十三m 人的被害・死者数 825人(町内の4.3%) 家屋被害 三三六九棟(町の46.7%) ※山田地区エリアは津波火災被害が大

②復興事業の経緯 ・平成二十三年四月 UR職員の派遣・復興計画策定支援 ・平成二十五年八月 大沢地区、山田地区、町から事業受託 ・令和元年九月 山田地区宅地引渡し完了 ・令和二年一月 山田地区区画整理事業換地処分公告 ③細浦柳沢線(桜山トンネル整備) 山田地区は、国道45号線、三陸鉄道が被災した。復興計画で、防潮堤整備や宅地の一部嵩上げや、防災集団移転事業で高台移転も行なったが、

嵩上げを殆ど行わない商業施設も計画されているため、国道45号線のバイパスとして、山田インターチェンジに接続する細浦柳沢線の整備もURが受託した。一部トンネル区間三三六m(桜山トンネル)が計画されていたが、完成時期は、町の強い意向もあり工期は平成二十八年七月(三〇年十二月)と設定された。発注は、限られたUR職員を補完する復興CM方式とし、受注者は、ゼネコン三社・コンサル二社で構成された「山田震災復興事業共同企業体(山田町CMR)」が町との設計協議等のマネジメント補助も行った。 トンネルは土被り五十m、地質は花崗岩 ・施工方法・NATM工法(山岳トンネル工法) ↓吹付けコンクリート、ロックボルト、鋼製支保工、覆工コンクリートにより地山の安定を確保して掘削する方法 ・掘削方式・発破方式(火薬による) ④URはトンネル施工の実績が殆どなく、関東とは異なる地盤条件(岩の掘削、腐植土の地盤改良など)や予算管理等の苦労した面もあるが、

III. 被災宅地危険度判定 今回の講演では、詳細な説明は省略したが、初めて聞く学生が殆どであるが、配布した資料から、被災宅地危険度判定制度が大規模な被災宅地の被害状況を調査を行い危険の程度を表示することは、二次災害を軽減・防止し住民の安全を確保するためには重要であるとの意見が多かった。 IV. 災害に強いまちづくりに向けて ・被災公共団体の技術職員が足りなかったり、まちづくりの経験者が少ない。 ・いかにスピード感を持って行うか、時間の経過で、住民の意向が変化する。人口減少



オンラインで実施された特別講演会

・令和元年九月 山田地区宅地引渡し完了 ・令和二年一月 山田地区区画整理事業換地処分公告 ③細浦柳沢線(桜山トンネル整備) 山田地区は、国道45号線、三陸鉄道が被災した。復興計画で、防潮堤整備や宅地の一部嵩上げや、防災集団移転事業で高台移転も行なったが、

Ⅲ. 被災宅地危険度判定 今回の講演では、詳細な説明は省略したが、初めて聞く学生が殆どであるが、配布した資料から、被災宅地危険度判定制度が大規模な被災宅地の被害状況を調査を行い危険の程度を表示することは、二次災害を軽減・防止し住民の安全を確保するためには重要であるとの意見が多かった。 IV. 災害に強いまちづくりに向けて ・被災公共団体の技術職員が足りなかったり、まちづくりの経験者が少ない。 ・いかにスピード感を持って行うか、時間の経過で、住民の意向が変化する。人口減少

の歯止めがかからない状況で、避難先から戻らない住民も考慮したインフラ整備方法。 ・復興での用地取得は、被災不明者の用地であったり土地の帰属が不明確な用地の扱い等。 【終わりに】 ・今回はリモート講演であったが、学生諸君は講演を視聴し、配布資料も読み込み、災害時に自分としての対応方法を考えている学生が多かった

ように思えます。 ・震災時は小学校五年生の岩手の内陸出身の学生は、県内の津波被災状況や震災復興状況をあまり知らなかった。今回、山田地区の被災直後の写真や図表、土地地区画整理事業の進捗状況によりまちの復興状況が把握できたとの感想もありました。 ○震災後十年経過し、津波被災地はハードな復興が進み、被災直後の惨状は殆ど見られない、改めて幅広く被

で発行する運びとなりまし。 た。お詫びいたします。 紙面の内容につきましては、会長挨拶、本年度実施した学生向けの講演会の報告及び土木系学科の主任教授の挨拶をメインとしております。 さらに、本年は日大土木の創設100周年という記念すべき年であり、様々な記念行事等もコロナ禍で延期もしくは中止となっております。その中で、理工学部土木学科の100周年情報を掲載させていただきます。 本会並びに本会報に対するご意見・ご要望等がありましたら、お気軽に事務局まで連絡をお願いします。(S.K)

あると確信しています。 本学科所属の教員・大学院生の話題としては、前田正博客員教授が令和元年八月の第五十六回下水道研究発表会の開会にあたり「オリンピックと下水道」という特別講演を行いました。また、令和元年十月に北海道大学で開催された廃棄物資源循環学会北海道支部令和元年度ポスター発表・交流会において修士二年岡崎祐介君が優秀ポスター賞を受賞しました。今後も学会等で活躍できるよう教員・大学院生とも日々研鑽してまいります。また、令和元年度に昇格された先生方は青山定敬先生、高橋若仁先生、水口和彦先生が教授に、中村倫明先生が専任講師に昇格され、赤津憲吾先生が助手として新規採用されました。なお、落合実教授(前学部長)、杉村俊郎教授、渡部正教授はご定年となり、特任教授として引き続き学生の指導に当たって頂いております。

最後にありますが、日大土木会の今後のますますの発展をお祈りするとともに、引き続き日大土木会の皆様のご指導・鞭撻のほどよろしくお願いたします。

日大土木 100周年

二百三名の新生は同級生に会う機会がほとんどありません。土木工学科では新生生のアンケート結果をもとにオンラインを用いた交流会を開催しました。教員と学生、学生間におけるコミュニケーションの第一歩として教員一名につき十名程度の学生を対象として同級生とのコミュニケーションが取れて安心したと、いった意見等があり、好評でした。



「理工学部土木学科が創設100周年を迎える」 教室窓口 重村智 日本大学理工学部土木学科は、2020年6月に私学の土木工学科で初めて創設百年を迎えました。 (1920年6月1日 日本大学高等工学校土木科として認可されました。) この間、3万6千人を超え

卒業生を輩出し、関東大震災の復興をはじめ国内外の様々な国土・都市基盤の整備に貢献してきました。 また、今日では工学部土木工学科、生産工学部土木工学科、そして理工学部交通システム工学科の土木系3学科も加わり「日大土木」として多くの卒業生が各方面で活躍されています。 現在、理工学部校友会土木部会(部会長・長田幸治)と理工学部土木工学科では、創設百周年記念実行委員会(委員長・近藤勉・昭和三十六年理工土木卒)を立ち上げ、記念事業(記念式典・祝賀会、記念誌制作ほか)を進めています。 なお、記念式典・祝賀会は、新型コロナウイルス感染防止等のため、当初の本年四月から延期し、来年一月に予定しています。詳細につきましては、次頁のポスターをご覧ください。

「承知のとおり、一九二〇年に日本大学高等工学校(現理工学部)に土木科が創設されました。 本年(令和二年・二〇二〇年)、日大土木は創設100周年の記念すべき年を迎えました。 理工学部においては、土木工学科と一緒に設置された建築学科と共に創設100周年を迎え、これまでの100年の歴史を振り返ったホームページの制作や100周年の記念ロゴ作り、次の一〇〇年に向けての情報発信をしております。

共催で記念式典の開催・記念誌の発刊等の企画も時間をかけて準備されており、ご紹介いたします。 なお、記念式典・祝賀会につきましては、コロナ禍の影響により延期となっております。(詳細はお問い合わせください。) 理工学部土木工学科の状況について教室窓口の重村先生にお知らせします。

「理工学部土木学科が創設100周年を迎える」 教室窓口 重村智 日本大学理工学部土木学科は、2020年6月に私学の土木工学科で初めて創設百年を迎えました。 (1920年6月1日 日本大学高等工学校土木科として認可されました。) この間、3万6千人を超え

事務局長より 会報第二十七号は、コロナ禍の影響により通常総会が中止となり、諸活動に影響を及ぼしてため約3ヶ月遅れ

